

真面目

東邦

東邦学園広報

キャンパス

東邦学園の建学の精神は「真に信頼して事を任せうる人格の育成」であり、校訓として「真面目」を掲げています。

特集：2016年度国際交流

東邦高校が提携する海外の姉妹校が集う4か国5校姉妹校交流会が4月25日～5月6日、中国の南京外国語学校で開催されました。

南京外国語学校での交流会に参加した4か国5校の高校生たち(前列中央が東邦高校生)



愛知東邦大学の姉妹校であるエベレット・コミュニティ・カレッジ(米国ワシントン州)の学生6人がインターンシップ研修のため6月14日に来日。2週間の滞在中、本学学生たちと交流を深めました。

「さよならパーティー」で別れを惜しむエベレット・コミュニティ・カレッジの学生たち(後の6人)



発行 学校法人 東邦学園

〒465-8515 名古屋市名東区平和が丘三丁目11番地
TEL 052 (782) 1241 FAX 052 (781) 0931

H P  愛知東邦大学  東邦高等学校

vol.124

平成28年(2016年)7月15日



高校

10回目の4か国5校姉妹校交流会を南京で開催

日本・中国・ニュージーランド・オーストラリアの高校生ら40人が参加

東邦高校が提携するすべての海外の姉妹校が、2年に一度集合します。それが4か国5校姉妹校交流会です。2016年度は姉妹校交流会開催の年にあたり4月25日～5月6日、中国南京市の南京外国語学校を会場に開催されました。このようにいくつかの国の高校生を集めて行う交流の形を持っているのは、愛知県でも東邦高校だけです。10回目の開催となった今回の交流会では「民俗芸能の保全」をテーマにプレゼンテーションと意見交換を行い、東邦高校を代表して参加した女子生徒5人は、京都の葵祭(あおいまつり)の伝統を守り、次の世代につないでくための取り組みを報告しました。

京都・葵祭で使うフタバアオイ育てる取り組みを発表

交流会に参加した東邦高校の姉妹校4校は中国の南京外国語学校(姉妹校提携は1988年)、ニュージーラン



姉妹校交流会で「葵プロジェクト」を発表した5人と伊藤教諭(国際交流室前で)

ドのシャーリー・ボーイズ・ハイスクール(同1990年)とマリアン・カレッジ(同)、オーストラリアのサレジアンカレッジ(同1997年)。最初の提携校となった南京外国語学校とは今年で提携28年を迎えました。

第1回姉妹校交流会は19年前の1997年に東邦高校うるぎ山荘(長野県売木村)などで開催されました。以来、ほぼ2年ごとに、課題テーマに対する意見交換を行いながら交流を続けています。9回目の前回は2014年4月25日～5月6日、東邦高校で開かれ、「世界遺産を通して考える地球の未来」をテーマに、世界遺産が直面する問題を調べ、次世代にいかにつなぐか話し合いました。

10回目となった今回の交流会には4か国から生徒と付き添い教員ら合わせて約40人が参加。東邦高校からは生徒5人(普通科3年の竹下真以さん、綿貫礼菜さん、同2年の鈴木星華さん、中村衣里さん、美術科3年の井上瑠璃さん)と佐々木泰裕校長、国際交流室長の伊藤保憲教諭が参加しました。

交流会テーマは「民俗芸能の保全と私たちのアイデンティティー」。東邦高校の5人は、葵祭の伝統維持をテーマに発表しました。葵祭は京都市の下鴨神社と上賀茂神社で毎年5月15日に行なわれる平安時代から続く京都三大祭の一つ。日本の王朝風俗の伝統が残されており、葵(フタバアオイ)を飾った平安後期の装束での行列が有名です。

斎王代の髪や参列者の装束などを飾るフタバアオイは約1万4000本が必要ですが、環境の変化やシカの食



南京外国語学校での交流会に参加した高校生たち
(右端の5人が東邦高校生たち)

害などが原因で、フタバアオイの数が減り続けています。NPO法人葵プロジェクト(京都市北区)の呼びかけで、全国の企業や学校などが2006年からフタバアオイの苗を育て、祭の伝統を支えています。東邦高校でも校内でフタバアオイを育て、葵祭で使ってもらおうという取り組みを始めています。

5人は、こうした取り組みを紹介しながら、伝統ある葵祭を継続させることの意義を訴えました。ニュージーランド、オーストラリアの生徒たちは先住民であるマオリ族やアボリジニに関する教育機会の提供やコミュニケーションの大切さなどについてプレゼン。南京外国語学校の生徒たちは方言を使った伝統芸能の保存について発表しました。

プレゼンでの発表は英語で行われました。英語が日常語であるニュージーランドやオーストラリアの生徒たちや、英語科のある南京外国語学校の生徒たちに比

べて東邦高校の生徒たちには大変だったようです。同行した国際交流室長の伊藤教諭は「生徒たちは丁寧な英語を話したと思いますが、他校の生徒のように日常的に使っているわけではないので苦労したようです。しかし、プレゼンテーションの充実度は高く評価され、自信が持てたようです」と話しています。

最初は緊張気味だった4か国の生徒たちも日程を消化するうちに打ち解け、最終日は涙ぐみながら別れを惜しみ、再会を誓い合う生徒たちもいました。

ユネスコ委員会活動としての「葵プロジェクト」も始動へ

その後、東邦高校では、南京での交流会で代表生徒5人が発表した葵祭に必要なフタバアオイの育成をユネスコ委員会の活動として取り組むことになりました。生活指導部、生徒会、国際交流室が中心になり、夏休み前にはプランターでの育成栽培がスタートする予定です。自然環境の保護、世界遺産としての葵祭の伝統を次の世代につないでいくという両方の観点で、ユネスコスクールの取り組みとしてふさわしいものです。

東邦高校は2014年4月、「世界遺産を通して考える地球の未来」をテーマに、国連教育・科学・文化機構(ユネスコ)からユネスコスクールの認定を受けました。ユネスコスクールは、ユネスコ憲章に示されたユネスコの理念を実現するため、平和や国際的な連携を実践する学校です。



今後の課題は全校的な広がり

校長 佐々木 泰裕

ユネスコスクールの認定については私が教頭だったころ、国際交流室の伊藤先生と一緒に実現に向けて動きました。2013年に富士山がユネスコの世界文化遺産に登録されるなど、世界遺産への関心が高まっていたころです。東邦高校が進めてきた国際交流をESD(持続可能な開発のための教育)という観点から推し進めるためにも、世界遺産について学ぶことは異文化理解や環境問題などより広い視野で考えるきっかけになるのではないかと思います。東邦高校にとっての今後の課題は積み重ねてきた国際交流の成果をいかにして全校的に裾野を広げ、ユネスコスクールの理念を生徒一人ひとりが共有できるかだと思います。

東邦高校ならではの複数姉妹校との同時交流

国際交流室長 伊藤 保憲(英語科教諭)

一度に複数の姉妹校と交流を続けることはなかなかできるものではありませんが、東邦高校ではそのスタイルが着実に引き継がれ、交流会実施は今年で10回を数えました。他校の国際交流担当者たちからは「東邦でしかできない国際交流」という声も聞くことがあります。こうした交流を積み重ねることによって、異なる文化や価値観を受け止める心のやさしさや考え方の柔軟さを持ってほしいと思います。多くの国の若者たちが、人類共通の課題について考え、ともに行動を起こし、地球にとって大切なものを一緒に次の世代につないでいく姿勢、態度を育てていきたいと思っています。

エベレット・コミュニティ・カレッジ学生6人来学 6月14日～27日 本学紹介の職場で貴重な異文化体験

愛知東邦大学の姉妹校であるエベレット・コミュニティ・カレッジ(以下エベレット、米国ワシントン州エベレット市)の学生6人が6月14日～27日、名古屋でのインターンシップ研修に取り組みました。愛知東邦大学で開かれた研修発表会やさよならパーティーで6人は、日本での異文化体験や出会った人たちとの交流での驚きと感動を語りました。国際交流委員会の事業計画としても取り組まれた今回のエベレットの学生たちの訪問は、愛知東邦大学の学生たちにもアメリカの大学生たちをより身近に感じる機会となるとともに、大学が今後の国際交流を展開していくうえで貴重な経験になりました。経営学部国際ビジネス学科長の田村豊教授と国際交流委員会委員長の佐々木裕美同学科教授に振り返ってもらいました。



留学生受け入れに手応え

国際交流委員会委員長 佐々木裕美

愛知東邦大学では2016年度の国際交流委員会の事業計画として、留学生の「受け入れ」と「派遣」の2本柱を掲げました。具体的には①留学生の受け入れ②交流協定校との関係強化と新規協定校の拡大による学生の留学先の拡大③海外短期研修の見直し検討と個別留学の検討と推進——の3点が重点課題です。

今回のエベレットの学生たちの受け入れは、エベレットの「日本語企業研修」として、エベレットが米国連邦政府からの補助金を得て取り組んでいるJLFU (Japanese Language Fluency for Undergraduates) 研

「おもてなしの心」を学びました



Ashleigh Carrollさん(名古屋国際ホテル)

たとえインターンシップで来た留学生であっても、職場に配置された以上、お客さまにホテルが提供する最良のサービスが求められる厳しい現場であることを教えられました。



Mason Crownさん(名古屋国際ホテル)

ホテルの制服を着ている限りはホテルの顔であり、「身だしなみ」の大切さとその意味を学びました。



Jessica Lentzさん(名古屋花壇)

きれいな花をきれいに保つための「裏方の仕事の厳しさ」を学びました。特に、アメリカでのほとんど歩かない生活から、電車を乗り換えて1時間以上かけて「通勤」する現実に苦労しました。



Aspen Byramさん(名東保育園)

0歳児から6歳児のいる名東保育園で、「アメリカから来たお姉さん」として7日間を過ごしました。子どもたちが材料を切って美味しいピザを作ってくれたのには、包丁を持

たせるなんてアメリカでは考えられないことなのでびっくりしました。自分がこんなに子どもを好きだったなんて、と新しい発見をしました。

Sierra Albrightさん(カフェサブヒロ)



初日はお辞儀の仕方の特訓から始まり、あいさつの仕方、「あうんの呼吸」まで学んだ7日間でした。アメリカでは若者に人気のあるブランドショップの店長を任されたこともあります。日本に来て全く異なる「おもてなしの心」を学びました。

Zackary Sageさん(愛知東邦大学・東邦高校)



愛知東邦大学の学術情報課で6日間と東邦高校で研修しました。全職員の前で、汗びっしょりの自己紹介に始まった初日から、緊張と学びの連続でした。国際ビジネス学科の学生たちによる「Book Showcase」の審査員をしたり、高校の英語の授業の補助に入ったり、学生や生徒たちとのやりとりがとても楽しかったです。JETプログラム(語学指導を行う外国青年招致授業)に応募する決心が固まりました。また日本に戻ってきます。

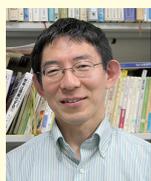
修として実施され、愛知東邦大学には研修先企業の選定、滞在中のホストファミリー先の確保などの要請がありました。2015年度国際交流委員会で、すでに「日本語で行う7日間の企業研修で何を学ぶか」について議論・決定され、「日本の『おもてなし』について学ぶ」をテーマに、5つの事業所での受け入れが実現しました。

インストラクター(教員)の加藤眞司先生の引率で6月14日に来日した6人は名古屋国際ホテル(中区)で2人が、瑞穂区の名古屋花壇、名東区のカフェサブリロ、名東保育園、愛知東邦大学・東邦高校で各1人が1週間の就労体験をしました。帰国前日の6月27日に行われたインターンシップ研修発表会とさよならパーティーではそれぞれが研修結果を日本語と英語で発表。6人は充実したビジネス体験やホストファミリーや、経営学部国際ビジネス学科の学生たちとの交流を通しての異文化体験で予想以上の収穫があったことを語りました。



会話が弾んだIB学生との交流

今回のエベレットの留学生の受け入れは愛知東邦大学の学生たちにとっても大変有意義な経験となりました。今後、エベレットとの交流を活発にすべく、国際交流委員会としても取り組んでまいります。2017年度から、ディズニー・ワールド・リゾートでの6か月インターンシップへ応募できるよう準備をしています。多くの学生にチャレンジして欲しいと思います。



国際ビジネス学科の学生たちにも収穫

経営学部国際ビジネス学科長

田村 豊(教授)

今回のエベレット訪問で重視されたのが日本で実施するビジネスインターンシップと日本の文化や社会の理解でした。研修先となる国や地域の会社をしっかりと理解するためには、企業活動を取り巻く社会や文化理解が不可欠となります。異文化コミュニケーションと呼ばれる領域です。海外で実施するビジネスインターンシップは、アメリカでも日本でも、今後いっそう本格化するでしょう。しかし、日本の多くの大学では海外ビジネスインターンシップの実施を行っている大学は少ないのが現状です。

愛知東邦大学経営学部には2016年度から開設された国際ビジネス学科(IB)では、今後の企業活動の国際的広がりを念頭において、海外ビジネスインターンシップを、アジアはじめ、海外各地で実施する教育プログラムを特色としています。専門知識としての経営学を学び、それと同時に、企業での実体験を重視している教育を提供するのがねらいです。2年生から準備を始め、3年生後期に海外の日本企業で研修を行う予定であり、ご協力をいただく企業も本学と関係の深い愛知

の企業が中心です。

そのためIBでは、今回のエベレットの訪問を勉強の一環として位置づけ、エベレット学生との交流に参加しました。例えば、オリエンテーション行事では行事進行のサポート、京都研修では道案内や訪問先での解説などを引き受けました。一方、エベレット学生らもIBでの講義に参加し英語、日本語でのコミュニケーションを楽しみました。

研修の最終日、エベレットの学生たちによるプレゼンテーションが行われ、今回の研修の成果が発表されました。発表では学生たちは共通に、ビジネスインターンシップを通じて仕事の仕方、仕事への熱意など、多くの点を学べたと感想を述べていました。

IBの学生たちも3年生になると海外でのビジネスインターンシップに挑戦します。4年生の時は海外インターンシップの体験をもとにして卒業論文を書く予定です。今回のエベレットとの交流を通じて、多くの学生が、海外での企業研修、海外でのビジネスインターンシップの難しさと面白さがちょっと理解できたようです。ぜひ今回の交流を通じて、異文化を知る大切さや、異文化を乗り越える楽しさに、エベレットの学生だけでなくIBの学生が気づいてくれことはとても大きな収穫でした。

年間行事

(2016年度)

3

終業式

4

入学式、始業式・クラブ紹介
オリエンテーション
学年PTA(2・3年)、遠足(2・3年)
学級合宿(1年)、体力測定

5

PTA総会・学年PTA(1年)
名東の日、中間考査
開校記念行事、実力考査(3年)

6

PTA委員会
学級懇談会(全学年)
期末考査

7

競技大会
終業式、夏期休暇
夏期補習(前期)
就職指導個別面接

8

夏の英語研修(ニュージーランド・オーストラリア)
インターンシップ(1年)
夏期補習(後期)、PTA委員会

9

始業式、面接週間
実力考査(全学年)
学級懇談会(3年)
学園祭(体育祭、文化祭)

10

中間考査

学級懇談会(1・2年)
英語スピーチコンテスト

11

修学旅行
卒業制作展(美術科、商業科グラフィックデザインコース)
期末考査

12

慰霊の日
学級懇談会(3年)
終業式、冬期休暇

1

始業式、面接週間
PTA委員会
学年末考査(3年)、実力考査(1・2年)
マラソン大会

2

修学旅行(1年人間健康コース)
予餞会
卒業式

3

学年末考査
実力考査
終業式

2016年2月28日 第67回卒業式を挙行

体育館で多くの来賓、保護者の見守る中挙行され、633人が巣立っていきました。創立90周年の記念の年に入学し、伝統の継承とともにバリ修学旅行や沖縄マリン体験など新たな企画にも積極的に取り組んだ学年でした。

2016年4月6日 590人迎え入学式

本校体育館

桜の咲き誇る中、体育館で平成28年度入学式が挙行されました。新入生代表の三輪羽哉人君が力強く「誓いの言葉」を述べ、東邦生として歩みだしました。7日には始業式・クラブ紹介が行われました。

4月20日～22日 1年生が学級合宿

1年生は2グループに別れ1泊2日で学級合宿を実施。前団は20、21日に、後団は21、22日にそれぞれ恵那・湯の山で合宿。後団はあいにくの雨でしたが、元気にバーベキューを楽しみ、クラス作りに取り組みました。

4月21日 2、3年生が遠足

3年生は京都・伊勢方面に、2年生は明治村・リトルワールドで実施。3年生は、今年は伊勢の人气が高く9クラスが出かけました。2年生は、残念ながら雨にたたられ雨天コースとなりました。

クエストカップ全国大会で初の企業賞を受賞

進路指導室 池田 暁生

東邦高校ではキャリア教育プログラムの一つとして、実在する企業からのミッションに教室にいながら取り組む「クエストエデュケーションプログラム・企業探究コース」を実践しています。その実践成果を競う「クエストカップ2016全国大会」が2月20日、東京の法政大学で開催、普通科チームが見事、企業賞に輝きました。

東邦高校のクエストカップ全国大会出場は、2012年に

クラブ活動報告(6月1日現在)

インターハイ出場 空手道部(男子団体組手、形女子個人)
東海大会出場 アーチェリー部(女子個人)
県大会出場 硬式テニス部(男子団体、女子個人)、ソフトテニス部(女子個人)、剣道部(男子個人)、サッカー部、バレーボール部男子、ハンドボール部女子

その他 バレーボール部男子 第15回愛知県ビーチバレージュニア選手権大会(梅村知哉・廣田一航ペアが優勝。全国大会へ)
ダンス部 2016年度全国高等学校ダンスドリル選手権大会東海大会、HIP HOP男子編成は優勝し全国大会へ
写真部 第23回全国高等学校写真選手権大会「写真甲子園2016」、団体で東海大会出場
卓球部 国体予選名北大大会入賞 男女個人県大会出場

プログラム導入以来、4年連続4回目。今大会には、ダイワハウスに取り組んだ美術科チームが2年連続出場、そして2015年度から導入している普通科チームもオムロンで出場を決め、2チームが参加をしました。



今大会から、例年よりも3分間短い7分間のプレゼンテーションとなりましたが、出場校のどのチームも工夫を重ねて素晴らしい発表を繰り広げました。全国の選りすぐりのチームの中、普通科チームが受賞した企業賞は、各企業が最優秀作品として贈る賞です。惜しくもグランプリは逃しましたが、大舞台での発表に挑んだ生徒たちには、自信と成長の姿を見る事ができました。

探究的な学びを通じて、生徒たちが自ら考え行動できる育成の一助となるよう引き続きこのキャリア教育活動に取り組んでいきます。

アルプススタンドと、感動の共有を再び

硬式野球部部長 小嶋 裕人



硬式野球部の3年生部員

センバツでは皆様方の暖かいご声援のお陰で、甲子園で1勝をあげることができました。誠にありがとうございました。

今は、春に果たせなかった目標を達成

すべく、個々の力量を高めながら、チーム力も確実に向上しています。福岡招待試合など強豪校との練習試合、厳しい練習の中で、監督からの気迫のこもった激。生徒達の「必ずやるんだ」という強い想いが伝わってきます。昨秋の躍動感溢れるプレーが、夏の大会でも発揮できると信じています。皆様と共に甲子園の地に舞い戻り、アルプススタンドで、大いなる感動を共有しましょう。今まで以上のご声援、ご支援を宜しくお願いいたします。

第70回愛知県高等学校総合体育大会 テニス競技に参加して

硬式テニス部(男子・女子)顧問 後藤 洋輔、中 健人

5月14日から5月29日に開催された愛知県高等学校

総合体育大会に参加しました。女子はシングルの個人戦、男子は団体戦に出場をすることが出来ました。1年生にとっては初めての公式戦、3年生にとっては最後の大会になります。期待と緊張に包まれ、気持ちの詰まった重要な大会でした。昨年の男子団体戦の成績は、名北地区予選1回戦敗退でしたが、今回は県大会出場という成果を収めることが出来ました。

今回の成績はコーチや監督、先生方、そして保護者の方々と多くの人たちの応援があったからこそ成し遂げることができたのだと確信しています。これからもご声援よろしくお願いします。

1人でも多くの選手が全国大会に

水泳部顧問 山田 琴絵

昨シーズンより、海で競技を行うオープンウォータースイミングのレースに参加しております。その中で、3年平野由里子(神丘中)が昨年2月にオーストラリアで行われた全豪選手権に日本代表として出場し、見事3位入賞を果たしました。



全豪選手権に出場した平野選手(※左から2人目)

また、今シーズンも6月よりインターハイに向けた予選会が始まっております。1人でも多くの選手が全国大会に出場し、誰からも応援されるチームを目指して日々努力を積み重ねていきたいと思っております。今後ともご声援よろしくお願い致します。

「心を一つに」夏の全国大会へ

空手道部顧問 村田 悟

この世の奇蹟とはなんだろう。人と人はわかり合えないもの、しかし一瞬、その不可解な「心」なるものがつながる時がある。奇蹟。人生においてその体験があるかないかは後に大きなちがいが生まれるのではないか。インターハイ出場37回目、連続出場25回目の偉業は達成された。5月県大会結果は男子団体組手優勝。男子個人組手優勝・女子個人形優勝でインターハイ出場。月並みだが、ここまでの道程は決して平坦ではない。それでも円陣を組み、肩を組んだとき確かに部員29人、心を合わせたと思った。

年間行事

(2016年度)

3

卒業証書授与式

4

入学式
オリエンテーション
前期講義開始

5

スポーツ大会
教育学部プレ・オープンキャンパス
大学開学記念日
AOガイダンス

6

教育実習
スポーツ大会
教育懇談会・後援会総会

7

オープンキャンパス
前期講義終了

8

前期末試験、夏期休暇（8/8～9/19）
オープンキャンパス
総合野外活動実習
教員免許状更新講習

9

幼稚園教育実習、教育個別懇談会
インターンシップ、海外研修
後期講義開始

10

オープンキャンパス
教員免許状更新講習

11

保育所実習
大学祭（和丘祭）
教員免許状更新講習

12

保育所実習
入学前セミナー
冬期休暇（12/23～1/6）

1

後期講義終了、後期末試験

2

後期末試験
就職宿泊、海外研修、卒業研究発表会
総合野外活動実習

3

卒業証書授与式、学内企業展
春期休暇（2/6～3/31）
入学前セミナー

2016年3月16日

卒業式で241人、旅立ちの春

卒業生は経営学部地域ビジネス学科114人、人間学部人間健康学科89人、同子ども発達学科38人。S棟2階ア

リーナでの式典で榊直樹学長から各学科代表3人にそれぞれ卒業証書が授与されました。榊学長は「社会人として充実した人生を送ることを願っています」とはなむけの言葉を贈りました。卒業生からの記念品として、学生用机・椅子セットが贈られA棟ロビーに設置されました。

2016年4月2日

国際ビジネス学科1期生を迎え入学式

式典はS棟2階アリーナで行われ、榊直樹学長が「柔軟な発想とチャレンジする姿勢に磨かれた4年後の皆さんの姿に期待しています」と告辞。経営学部地域ビジネス学科109人、新設の国際ビジネス学科12人、人間学部人間健康学科101人、教育学部子ども発達学科74人の総勢296人が愛知東邦大学でのスタートを切りました。

東京パラリンピックの車いすバスケット

経営学部の田中さんが愛知県強化指定選手に

2020年東京パラリンピックをめざす愛知県強化指定選手38人の認証式が6月14日、愛知県庁で行われ、愛知東邦大学経営学部地域ビジネス学科3年生の田中秀弥さんが男子車いすバスケットボール強化指定選手に選ばれて出席、大村秀章知事らから激励を受けました。

田中さんは岐阜県各務原市出身。小学3年生の時からスポーツ少年団でフィールドホッケーをしていましたが、中学1年生の時のゴールデンウィークに、母親の実家である秋田県に家族で車で旅行中、居眠り運転の車に追突されて腰と左足の付け根の部分を粉碎骨折。もうスポーツはやれないとあきらめていましたが、中学、高校時代に部活でバスケットボールをしていた両親の勧めがきっかけで中学3年生の夏から車いすバスケットボールを始め、地元の車いすバスケットクラブチーム「岐阜SHINE」に所属しています。



認証式で大村知事から激励の握手を受けた田中さん

2016年4月22日から29日まで、ドバイで開催された車いすバスケットボールの世界大会「8th Fazza International Wheelchair Basketball Tournament」に日本代表メンバーとして参加し、チームは銀メダルを獲得しました。

日本一応援されるチームを目指して

女子サッカー部 吉原 知里(人間学部4年)

今年度の目標は、①全日本大学女子サッカー選手権(インカレ)ベスト8②愛知県選手権3連覇、皇后杯出場③東海リーグ1部優勝④愛知県リーグ1部優勝の4つです。

今期掲げている目標をすべて達成するため、「一丸」をスローガンとして、目標に向かって進



んでいます。日本一応援されるチームを目指して、サッカーができる環境に「感謝」し、応援して下さる皆さまに「笑顔」を届けられるよう、精一杯努力していきます。7月までは東海リーグ、県リーグ、9月は愛知県選手権、そして9月末からインカレ予選が始まります。応援よろしくお祈りいたします。

感謝の気持ちを忘れず、チーム一丸

男子サッカー部監督 伊藤 数馬

男子サッカー部は今期、新入生14人を迎え、総勢60人で日々トレーニングに励んでいます。今季より監督を



させていただくこととなり、全員が攻守にハードワークし、躍動感のあるアグレッシブなサッカーを旨とし、チーム作りをしています。また、本学の校訓でもある「真面目」に、謙虚に、素直に、サッカーに取り組む集団となるため、諸先輩方の功績や大学関係者のご支援等への感謝の気持ちを忘れず、選手・スタッフがチーム一丸となって、頑張りたいと思っております。応援の程よろしくお祈りいたします。

いつもありがとうございます

吹奏楽団監督 白谷 峰人

吹奏楽団は2016年で創団10年目に入りました。

団員数は12人と少人数ではありますが、本番依頼数は年々増えてきています。

年間30本を超える本番があるという幸せを団員一同身にしみて感じております。

好きなことを好きなだけやれると

いう幸せ、練習できる環境があるという幸せ、観て聴いていただける場面があるという幸せ、たくさんの幸せを感じています。そして、まだまだ技術的にも未熟な私たちの演奏・演技を観て聴いて笑顔になっていただいたり、時には涙していただいたり…たくさんの方々との心が繋がる瞬間を私たちは大切にしています。

この先も『真に信頼される人材になる』をモットーに、たくさんの皆様に愛されるアイドル[※]バンドを目指し日々精進していきます。(※アイドル=人気者)

最後に、いつも私たちの活動を応援していただいている教職員の皆さま、保証人の皆さま、ファンの皆さまにこの場を借りて心より感謝いたします。

いつもありがとうございます。

これからもがんばります。



新人戦準優勝

硬式野球部 宮腰 陵人(人間学部1年)

4月2日から5月26日に行われた春季リーグ戦2部Bで2位の結果を残しました。惜しくもチームは1部に昇格できませんでしたが、チーム力が高まったと感じる大会になりました。

また6月11日から1年、2年の新人戦が行われました。6月18日中京大学グラウンドで行われた1部リーグ愛知産業大学の

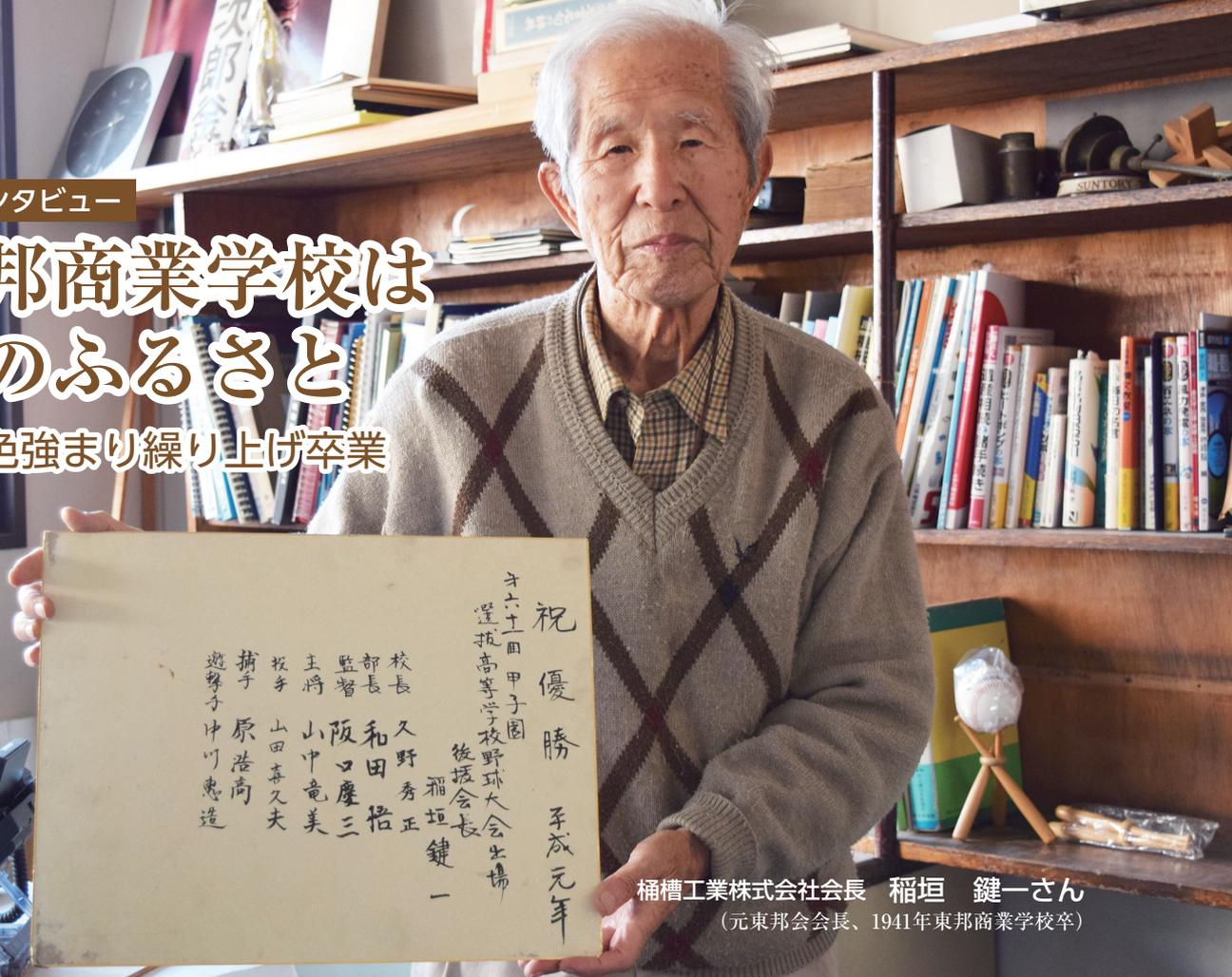
試合を7-5で勝利しベスト4となりました。19日名城大グラウンドで準決勝を至学館大に勝利し、決勝戦



では1部リーグ中部大に惜しくも敗れましたが、新人戦準優勝という結果を残すことができました。

これから夏に入り、夏季休暇中も9月に開催される秋季リーグ戦に備えて厳しい練習が続きます。今後とも硬式野球部への温かいご支援、ご声援のほどよろしくお祈りいたします。

東邦商業学校は 心のふるさと 戦時色強まり繰り上げ卒業



桶槽工業株式会社社長 稲垣 鍵一さん
(元東邦会会長、1941年東邦商業学校卒)

東邦高校が春の甲子園で4回目の優勝に輝く1989年の出場決定当時、稲垣さんは東邦会会長、後援会長でした。

東邦高校がまだ旧制東邦商業学校(5年制)だった時代、校舎は名古屋市中区赤荻町にありました。日米開戦直後の1941(昭和16)年12月27日、稲垣さんら15回卒業生たちは繰り上げ卒業しました。在学中は野球部が春の甲子園で2度優勝し、全国に「東邦」の名を轟かせた時代でした。しかし、戦時色は日一日と強まり、学校では軍事訓練教育が中心になっていきました。「国防競技」が競われ、稲垣さんも東海4県大会では東邦商業代表として手榴弾投げ競技、障害物競技などに参加しました。軍需工場への動員にも明け暮れ、せかさされるような母校との別れでした。激動の時代を乗り越えた稲垣さんに、卒業以来75年の歳月が流れた母校・東邦商業学校時代を中心に語っていただきました。(聞き手=法人広報企画課・中村康生)

体育系部活が「国防競技」中心になっていた時代

戦前の東邦商業は春の甲子園(選抜中学校野球大会)で3回優勝していますが、そのうち2回は私が在学中の優勝です。私も入学時、学友の勧めで野球部に入りましたが長続きしませんでした。しかし、学校中

がずっと野球の応援で大変盛り上がり続けたわけではなく、私自身も甲子園の応援には行きませんでした。

時代的にも、野球は「敵性スポーツ」と呼ばれ始めていました。運動部が所属する体育部は「鍛錬部」と名前を変え、野球部は他の運動部と同様の野球班として活動することになっていきました。4年生だった1940(昭和15)年には第1回愛知県中等学校国防競技大会が開かれ、東邦は総合優勝を果たしました。5年生の時には、静岡県草薙(くさなぎ)運動場で東海4県大会が開かれ、私も東邦の代表選手の1人として出場しました。手榴弾投げ競技、土嚢運搬、障害物競技、そりによる土嚢運搬、長距離マラソンでの合計点を競いました。高さ2mほどの壁を越える障害物競技は、まるで忍者競技でした。最後の全員銃を担いでの長距離マラソンでは、私はゲートルを強く巻きすぎて遅れてしまいダウン。私のせいで優勝を逃してしまったようなもので、申し訳ない結果になってしまいました。

学校は進学希望者を最後まで面倒みてくれました

私たち15回卒業生は、戦局が緊迫するなかで、本来

なら1942(昭和17)年3月卒業でしたが、繰り上げて1941(昭和16)年12月27日に卒業しました。ただ、学校は、進学希望者のために3月までは熱心に補習や進学指導をしてくださいました。早稲田大学とか日大とか30人くらいが上級学校に進学しました。『東邦学園70年のあゆみ』によれば、この当時、東邦商業の進学熱は高く、1940年4月には名古屋大学経済学部の前身である名古屋高等商業学校生7人などと在校生50人が参加しての進学座談会を開催。稲垣さんら15回卒業生の上級学校進学者は過去最高の32人に達しました)

仲の良かった浅井(旧姓・林)静男君(元東邦高校校長)は東京理科大学の前身である東京物理学校に進学し、私は、当時の商工省直轄で東京、大阪、名古屋に設立されていた「国立愛知機械技術員養成所」に進学しました。戦争での全般的な労働力不足、熟練工不足を補う必要もあったのででしょう。商業学校より工業学校が求められる時代になっていました。東邦からは愛知機械技術員養成所には3人が入学しました。

私の自宅は大曾根ですが、近所で神戸の商船学校に進んだ同級生もいました。卒業する時は、「大型商船の船長になるんだ」と夢を語っていたのですが、戦争が終わって帰って来て、「東シナ海で潜水艦にやられ、俺だけが助かってしまった」としみじみ語っていたのを覚えています。

終戦まで8年開校した 「国立愛知機械技術員養成所」

国立愛知機械技術員養成所は1938(昭和13)年の創立からわずか8年間の歴史を刻んだだけで、戦後の1946(昭和21)年に廃校になりました。校舎は名古屋市北区



稲垣さんが3年生だった1939(昭和14)年当時の運動会(上)と軍事教練(下)

にありましたが、終戦の年の1945(昭和20)年5月の空襲で校舎を全焼しました。1年間の促成教育でしたが、全員が寮に入り、毎朝5時半に起床し、水風呂に入ってから朝礼、「皇国民の信念」を朗読しました。私は製図科を卒業しましたが卒業後も設計、製図の指導教官として勤務し廃校まで見届けることになりました。送り出した卒業生は1604人でした。

廃校から45年後の1991(平成3)年5月、私も世話人となって卒業生約120人が集まって同窓会を開き旧交を温めました。この学校で学んだ製図の知識と激しい訓練と勉学の日々での体験はその後、風呂桶の製造販売の家業を引き継ぐのに大きな支えになりました。

人生の基礎が築かれた東邦商業時代

国立愛知機械技術員養成所に入学した時、学校の教官からだったと思いますが、自分の出身学校を問われ、「出身校という看板はお墓まで持っていかねばならんぞ。看板は消えない。大事にしなければ」と言われたことがあります。なるほどと思いました。学校に入る時は何とも思わなくても、社会に出てからよくわかります。

旧制中学校や商業学校など中等学校時代は、長い人生の中ではわずかな時間にすぎないかもしれませんが、しかし、多感なこの時期は、互いに何の飾り気もなく、裸で付き合える時期でもあります。私にとって人生の基礎を築いてくれたのが東邦商業時代です。人とのつながりは大きな財産です。商売をやっていると特にそう感じます。

稲垣 鍵一(いながきけんいち)さん

名古屋市北区生まれ。1937(昭和12)年に東邦高校の前身である東邦商業学校に入学。太平洋戦争に突入した1941(昭和16)年12月に繰り上げ卒業。国立愛知機械技術員養成所卒。父親の手がけていた風呂桶製造販売業を引継ぎ、1967(昭和42)年に桶槽工業株式会社(「オケソー」)の2代目社長に就任し「グレース洋裁学校」を経営した時期も。現在は桶槽工業会長、稲垣商事社長。1986(昭和61)年から1999(平成11)年まで13年間東邦高校の同窓会組織である東邦会会長。91歳。

函館市民に夢と感動与えた元東邦球児 1939年センバツ優勝の猪子利男さん の野球人生

東邦高校のセンバツ全国制覇は過去4回ありますが、3回は戦前の東邦商業学校時代です。栄光を体験した元東邦球児3人が戦後、北海道にわたり伝説の社会人野球チーム「函館太洋倶楽部」(愛称・オーシャン)で活躍した時期がありました。函館市民に夢と感動を与えた元東邦球児・猪子利男さんの野球人生を追いました。(法人広報企画課・中村康生)

伝統の社会人野球チーム「函館太洋倶楽部」(オーシャン)が生まれた函館市

北の大地めざした3人

函館太洋倶楽部は1907(明治40)年、函館の青年教師たちによって創部された日本で最も古い社会人野球チームです。1939年の米大リーグ選抜チームと対戦した全日本の主将兼捕手として沢村栄治やスタルヒンともバッテリーを組み、ベープルースらに立ち向かった久慈次郎、5番打者として活躍し、後に東京読売巨人軍の初代4番打者となった永沢富士雄を擁した黄金時代もありました。

オーシャンに入団した元東邦球児3人は、1934年センバツ優勝の片岡博国さん、1939年優勝の猪子利男さん、1941年優勝の大浅達夫さんです。片岡さんは早稲田大学、昭和製鋼、名古屋鉄道管理局を経て1947年にオーシャン入りし捕手としてチームを牽引しました。猪子さん、大浅さんは翌1948年に入部しています。



オーシャン現役時代(1952年ごろ)の猪子さん

猪子さんは一宮市出身。東邦商業時代、春、夏合わせて5回、甲子園の土を踏んでいます。

優勝した1939年のチー

ムは、5試合で59得点、73安打、56打点、打率も3割5分8厘という記録を球史に残し、遊撃手で俊足の猪子さんも他のナインとともに優秀選手賞に輝きました。卒業後はプロ野球南海軍に入団。1942年の犠打33は、1965年に近藤昭仁(大洋)が41犠打に塗り替えるまでプロ最高記録でした。

「観客にぶざまな姿は見せられない」

甲子園、プロ野球の晴れ舞台を歩んだ猪子さんは、函館市民を魅了しました。「俊足でアクションも派手。テレビがない時代ですから、とにかく格好よく見えました」。猪子さんと一緒に現役時代を過ごしたことがある辻春信さん(86)は懐かしそうに語ります。

辻さんによると、肩とひじを壊していた猪子さんは、遊撃の守備では深く守り、打球に猛然とダッシュし、体の動きのままに送球する独特の投法でカバー。打席ではアウトコースにしぼって右に押し出す打法でした。「手首が返らないからそれしか打ちようがなかったのですが、見事なバットさばきでした」と辻さんは言います。

たまにエラーをすると、「俺はだめだ。交代だ」と真っ直ぐベンチに向かう傍若無人ぶりも見せました。プロ経験者として観客にぶざまな姿は見せられないというプライドがあったからでしょう。勝てない後輩たちに「いったい何をやっているんだ」とカミナリを落とすこともありました。

猪子さんは1952年を最後にオーシャンを離れ、塗装店での仕事に専念します。1950年からプロ野球は

2リーグ制となり続々と新球団が誕生、オーシャンからは片岡さんら主力3選手が引きぬかれました。片岡さんは毎日オリオンズに入団、選手引退後も阪急ブレーブズ2軍監督などで若手選手の育成に努めベストファーム賞も受賞しています。

都市対抗野球も高度成長期に向かうなか、企業城下町を盛り上げる企業チームが主役となっていきます。猪子さんと一緒にオーシャンに入り、レフトを守った大浅さんも東洋高圧北海道に移籍しました。

オーシャンOB会設立と猪子さんの死

片岡さん、大浅さんら同僚たちが次々に函館を去った後も、猪子さんは函館に住み続けましたが、オーシャンとは疎遠になっていきました。久し振りにオーシャンの仲間たちに懐かしい猪子さんから「OB会をつくって、野球好きな子どもたちを育てよう」と声がかかったのは、オーシャンが1997年に創立90周年を迎える少し前でした。「函館太洋倶楽部OB会」が誕生し、猪子さんが初代会長に就任しました。ところが翌年の1998年5月26日、猪子さんは腹部動脈瘤破裂であつという間に77歳の生涯を閉じました。猪子さんが、チームの強化、現役とOBが一緒になって小学生を指導する野球教室の実現を楽しみにしていた矢先でした。

北海道新聞は、急逝した猪子さんを「戦後のオーシャン黄金時代を支えた」と紹介し、「派手なプレーで人気 最後まで後輩たちを激励」という見出しで特集記事を掲載しました。函館市職員でオーシャン部長だった津國和男さん(当時45歳)は「野球に対する厳しい姿勢に接し、自分たちは甘かったことを反省させられた。猪子さんから『うまい』と言ってもらえる選手はなかなかいませんでした。オーシャン黄金時代を支えた人を亡くして残念です」という談話を寄せました。

地元情報誌も「函館ゆかりの人物伝」で、「戦後の太洋(オーシャン)倶楽部を牽引し、多くの市民に“夢と感動”を与えた快男児」と猪子さんを悼みました。

東邦野球部史への寄稿

猪子さんは1994年7月に発行された『東邦商業学校・東邦高校野球部史』に「野球で培ったたましい」という一文を寄せていました。甲子園での優勝、南海時代に対戦した巨人、阪神戦など3年間のプロ野球体験、後楽園球場での都市対抗野球など日の当たる華やかな舞台を振り返る一方で猪子さんは、野球人生のなかで「補欠」を経験したのが唯一、東邦商業時代だったと書いています。以下は抜粋です。

「練習が終わり、真っ暗になった外野の塀にもたれて、いつまでたっても上手くならない、自分はいつになったら試合に出られるようになるのかと涙が止まりませんでした。親(母親しかおられません)の顔や後援者の顔が目に見え、いつまでたっても泣いておりました」

「矢張りグラウンドに立ってプレーできる選手にならなければ。私は常に商売は儲けなくては駄目、勝負は勝たなければ駄目だと言っております。過激すぎるでしょうか。でも、これが涙を流して練習に励んだ者の意地、いやたましいです」

寄稿文を読んだオーシャン部長の津國さんは、「負けず嫌いの猪子さんの気性が良く分かります」と言います。そして、「猪子さんは、オーシャンには大学や高校で活躍した選手たちが集まっていて、仕事そっちのけで野球をやっていると思って函館に来たのではないかと。ところが実際は午後5時までの仕事を終えてからの練習。野球で食べていく仕組みではない。こんなはずではなかったと思いながらオーシャンから離れていったのではないかと思います」とも語りました。

食べていくために

函館市在住の猪子さんの長女米川美智代さん(72)によると、猪子さんは、2歳で母を亡くしました。母の妹を後妻に迎えた父も10歳の時に亡くなりました。継母や弟に迷惑をかけまいと特待生として東邦商業に入学。電車賃がなく、一宮から名古屋まで歩いた時もあったそうです。「父は、食べていくために野球をやったのだと言っていました」と米川さんは語ります。

米川さんが、猪子さんの野球選手としての活躍ぶりを知ったのは小学生の時でした。オーシャンファンの担任教師が、授業そっちのけで猪子さんについて語り、「お前のお父さんはすごく足が速かったんだぞ」と話してくれたそうです。「足は速くても、父は私の運動会には一度も来てくれなかった。家族を食べさせていくことで必死だったのでしょう」。

糖尿病だった妻に寄り添う中での動脈瘤破裂。死ぬのもあつという間でした。家族は棺の中に愛用の竹製バットを入れて猪子さんを送りました。

猪子さんは母校野球部から依頼のあつた原稿を書きながら自分の野球人生を振り返っていたに違いありません。もう走り続けなくてもいい。肩の力を抜いて生きていこう。書きながら泣いていたのではないかと。函館の市民球場「オーシャンスタジアム」に展示されている、猪子さんも着た1949年当時のオーシャンのユニフォームを見ながらそう思いました。



函館市の市民球場「オーシャンスタジアム」

2015(平成27)年度 東邦学園 事業報告

1. 事業概要

教育機関を取り巻く諸環境に厳しさが一層募る中、大学においては2016年度に経営学部の新設する国際ビジネス学科の学生募集と最終準備を進め、新たなタイプの学生寮も整備した。高等学校では普通科に新設した人間健康コースがスタートし、愛知東邦大学の教員が中心となったスポーツと健康に関する多角的な総合学習も始めた。ICT機器など、教育環境の整備にも努めた。

多額の支出は、財政状況をひっ迫させることにもなるが、これは生徒・学生の急減が不可避である以上、現時点で「攻め」に転じておかなければ、この先展望を開けないと判断したからである。理事長が学長を兼務し、新たに前高校長が学園常務理事に就任するなど、人的にも学内の総力を結集できる体制を敷いた。意思決定を迅速化し、また高大連携を強化するものである。

大学の学生募集は1割を超す定員の未充足になったものの、本学が初めて社会人を本格的に迎える文部科学省「職業実践力育成プログラム」に認定された。なお、高等学校は推薦志願者がさらに増える結果となった。

【法人】

法人部門では、教学・経営活動を円滑に進めるために、大学および高等学校の各事業計画の進捗状況を的確に把握して経営目標を達成するよう、法人事務局長のもとに内部監査室を設置し、チェック体制を強化した。また監事と新たな監査法人、内部監査室との連携によって、現状評価から改善へとつなげるサイクルの実質化を図った。次年度も事業目標を確実に達成するよう、計画の進捗管理を支援する。

【愛知東邦大学】

18歳人口の著しい減少で、「(私大の半数の)300大学が退場を迫られる」との予測がある。「この大学でぜひ学びたい」「社会が期待する学生を輩出している」と、より評価される存在となるべく、諸活動に当たった。気品ある雰囲気のあるL棟をはじめ、新築・改修を終えた校舎のもと、学生の満足度は75%に上昇し(2015年9月調査)、地域と連携した教育や活動は一層活発化した。一方で募集は、2016年度に向けて受験生の関心を期待した新設の国際ビジネス学科が定員の2割に低迷、他学科も軒並み落ち込んだ。入口(入試)で他校と競うことから、4年間の満足度、最終的には出口(学生の成長ぶりと就職等)が益々問われることとなった。

【東邦高等学校】

数年来教職員が一丸となって取り組んできた諸改革の成果が、次第に社会に評価されるようになり生徒募集では推薦入学者数は前年度を上回るものであった。また、ICTを利活用した教育の充実に向けて施設設備の整備に力を注いでいる。現在、国は「高大接続システム改革」に向けた準備を進めている。「一人ひとりの持つ主体性や多様な個性の尊重、学びの「プロセス」の充実と多面的な評価」に取り組むことが課題とされている。高校段階における「質の保証」を意識した教育実践を着実に重ねていくことが肝要である。

財務情報の開示

学校法人東邦学園の財務に関する下記の情報をご請求に応じて開示します。開示の対象者は学園の教職員、在学生又はその保護者・保証人、卒業生、債権者、入学希望者又はその保護者(保証人)です。

- ・計算書類(資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表)
- ・予算書(資金収支予算書、事業活動収支予算書)
- ・事業計画書および事業報告書
- ・財産目録
- ・監査報告書

2. 財務概要

2015年度は、学校法人会計基準の改正により、計算書類が変更となった。この新基準に従い、活動区分ごとの資金の流れや經常収支と臨時的収支を新たな形式で明確にしている。

財政面で例年と異なる事業支出としては、学生寮(TOHO Learning House)を12月に改装し、大学の新たな教育の場とし

て整えた。納付金収入に直結する入学者数は、大学の人間学部と教育学部の新生が入学生員を超え、全体として350人の入学定員に対し370人となった。大学全体として入学定員を確保し、2014年度との比較では最大の収入源である納付金の改善につながった。

なお、当初の予算編成方針では、学園が安定的に持続するため単年度収支のバランスを見る重要な評価指標の一つである事業活動収支差額比率(基本金組入前当年度収支差額÷事業活動収入=旧帰属収支差額比率)を5%に設定した。決算結果では4.7%となり比率目標を達成できなかったが、2014年度の2.6%より2.1ポイント上昇し、収支差額での黒字は維持した。

1. 学園の財政状況

(1) 資金収支計算書

資金収支計算書(表1)は、当該年度の教育研究活動に対する支払資金の収入・支出の顛末を明らかにしたものである。

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
① 学生生徒等納付金収入	2,192,668	① 人件費支出	1,979,940
② 手数料収入	41,184	② 教育研究経費支出	493,465
③ 寄付金収入	39,238	③ 管理経費支出	186,243
④ 補助金収入	930,126	④ 借入金等利息支出	17,915
⑤ 付随事業・収益事業収入	5,521	⑤ 借入金等返済支出	342,146
⑥ 受取利息・配当金収入	3,295	⑥ 施設関係支出	130,049
⑦ 雑収入	89,975	⑦ 設備関係支出	84,385
⑧ 借入金等収入	0	⑧ 資産運用支出	233,610
⑨ 前受金収入	346,900	⑨ その他の支出	34,747
⑩ その他の収入	450,179		
⑪ 資金収入調整勘定	△ 503,644	⑩ 資金支出調整勘定	△ 33,270
⑫ 前年度繰越支払資金	1,396,793	⑪ 次年度繰越支払資金	1,523,008
⑬ 収入の部合計	4,992,238	⑫ 支出の部合計	4,992,238

【収入の部】

2015年度の主な収入は、表2のとおりである。

科目	2014年度	2015年度	差異
① 学生生徒等納付金収入	2,117,353	2,192,668	75,315
② 手数料収入	45,682	41,184	△ 4,498
③ 寄付金収入	28,075	39,238	11,163
④ 補助金収入	1,065,565	930,126	△ 135,439
⑧ 前受金収入	400,179	346,900	△ 53,279

① 学生生徒等納付金収入

学園の主な収入である授業料や入学金などの学生生徒納付金収入が、前年度を7,531万円上回った。

2015年5月1日現在の学生生徒数は3,029人。前年度比で高等学校は21人減少。一方、大学では59人増え、全体で38人増加した(表3)。

(表3) 2015年5月1日現在の在籍学生数 (単位: 人)

	愛知東邦大学				合計
	経営学部	人間学部	教育学部		
	地域ビジネス学科	人間健康学科	子ども発達学科		
2014年度	566	461	140	71	1,238
2015年度	552	488	92	165	1,297
増減	△ 14	27	△ 48	94	59

	東邦高等学校			合計
	普通科	商業科	美術科	
2014年度	1,313	317	123	1,753
2015年度	1,406	209	117	1,732
増減	93	△ 108	△ 6	△ 21

- ② **手数料収入**
2016年度の検定料収入などで、志願者数減少により4,118万円となった。
- ③ **寄付金収入**
同窓会や企業などからの一般寄付金とともに吹奏楽部のローズパレード出演や高校硬式野球部甲子園出場などの特別寄付もあり、目標額を超えることができた。
- ④ **補助金収入**(国・県・市からの経常費補助金や高校の授業料軽減補助金等)
経常費補助金以外に私立大学等教育研究活性化設備整備事業1,221万円、高校ICT補助金1,759万円が採択されたが、耐震補強工事の関係による私立学校施設設備費補助金などは2014年度で終了しており、1億3,543万円下回った。
- ⑤ **付随事業・収益事業収入**(教員免許更新講習や東邦STEPなどの受講料収入)
- ⑥ **受取利息・配当金収入**(保有資産に対する配当、預金利息)
- ⑦ **雑収入**(退職金財団からの当年度交付金や高校プール賃借などの設備利用料収入、科学研究費補助金の間接経費など)
- ⑧ **前受金収入**(2015年度中に収納した2016年度分の学納金等)
2016年度入学予定者が減少し、前年度より5,327万円下回った。
- ⑨ **その他の収入**(前期末未収入金や奨学金貸付金回収収入等)
- ⑩ **資金収入調整勘定**(期末未収入金や前期末前受金分)
- ⑪ **前年度繰越支払資金**(前年度から繰越した現預金(支払資金))
- ⑫ **収入の部の合計**
2016年度新入生の入学時納付金等の前受金等を含む35億9,544万円に、前年度繰越支払資金を加えて、合計49億9,223万円となった。

【支出の部】

2015年度の主な支出は表4のとおりである。

科 目	2014年度	2015年度	差異
①人件費支出	1,969,753	1,979,940	10,187
②教育研究経費支出	599,568	493,464	△ 106,104
③管理経費支出	219,147	186,242	△ 32,905
④借入金等利息支出	17,899	17,914	15
⑤借入金返済支出	260,904	342,146	81,242
⑥施設関係支出	1,198,063	130,049	△ 1,068,014
⑦設備関係支出	95,792	84,385	△ 11,407
⑧産運用支出	216,351	233,610	17,259

- ① **人件費支出**(専任や非常勤教職員などへの給与、役員報酬等)
本務教員数の増加に伴い、非常勤講師の持ちコマ分は圧縮した。また、募集・広報強化のために事務職員を増員した。その結果、大学・高校の退職金を除く人件費は増加した。
- ② **教育研究経費支出**(教育研究に必要な消耗品、旅費交通費などの経費や奨学金)
- ③ **管理経費支出**(管理運営に必要な消耗品、旅費交通費、諸団体加盟費や広報費などの経費)
- ④ **借入金等利息支出**(大学・高校ともに校舎建築等のための借入金に対する利息)
- ⑤ **借入金返済支出**(借入金の返済額および高等学校授業料補助金等)
- ⑥ **施設関係支出**(土地、建物、構築物の取得等)
大学の学生寮(TOHO Learning House)の改装工事費用を支出した。
- ⑦ **設備関係支出**(機器備品、図書等の取得にかかる経費)
高校の情報関連環境を整備した。
- ⑧ **資産運用支出**
減価償却引当特定預金(減価償却額1/2)や創立100周年特定預金(毎年200万円)を繰入れた。
- ⑨ **その他の支出**(前期末未払金や預り金の支払支出等)
- ⑩ **資金支出調整勘定**(期末未払金や前期末前払金分の調整)
- ⑪ **翌年度繰越支払資金**(翌年度に繰り越す現金預金)
前年度より1億2,621万円増加し、15億2,300万円となった。
- ⑫ **支出の部合計**(翌年度繰越支払資金を含む支出の合計で、収入の合計と同額)

(2)活動区分資金収支計算

学校法人会計基準改正により新たに追加された「活動区分資金収支計算書」は、企業会計の「キャッシュ・フロー計算書」の活動別に区分して計算する考え方に基づく。「教育活動(教育活動による資金収支)」「施設若しくは設備の取得又は売却その他これらに類する活動(施設整備等活動による資金収支)」及び「資金調達その他前記二つの活動に掲げる活動以外の活動(その他の活動による資金収支)」に区分される。

① 教育活動による資金収支

キャッシュベースで、本業となる教育活動の収支状況を示す。

② 施設整備等活動による資金収支

当該年度に施設設備の購入とその財源を示す。

③ その他の活動による資金収支

借入金の収支や資金運用の状況等、ここでは主に財務活動を見る。

経営状態を学園全体で見ると、本業の「教育活動」がプラス、「施設整備活動」はマイナス、「その他の活動」は過去の借入金返済があり、マイナスである。「教育活動」のプラスにより、施設整備等に資金を回し、借入金の返済後、1億2,621万円のキャッシュを生み出している(表5)。

(表5) 活動区分別資金収支計算書 (単位：千円)

教育活動による資金収支	
教育活動資金収入計	3,268,903
教育活動資金支出計	2,659,647
調整勘定等	△ 35,286
①教育活動資金収支差額	573,969
施設整備等活動による資金収支	
施設整備等活動資金収入計	29,810
施設整備等活動資金支出計	446,044
調整勘定等	204,111
②施設整備等活動資金収支差額	△ 212,122
その他の活動による資金収支	
その他の活動資金収入計	7,035
その他の活動資金支出計	364,919
調整勘定等	122,252
③その他の活動資金収支差額	△ 235,632
支払資金の増減額 (①+②+③)	126,214

(3)事業活動収支計算

事業活動収支計算では、毎会計年度、当該会計年度の「教育活動」、「教育活動以外の経常的な活動」及び「前記二つの活動以外の活動」に対応する事業活動収入及び事業活動支出の内容を明らかにするとともに、当該年度の基本金組入額を控除した当該会計年度の諸活動に対応する全ての事業活動収入及び事業活動支出の均衡の状態を明らかにする。

教育活動の収支差額は、1億3,943万円のプラスとなり、教育活動外の収支差額の1,461万円のマイナスを合わせた経常収支差額は、1億2,481万円の黒字となった。特別収支差額の3,232万円を加えた基本金組入前の当年度収支差額は1億5,714万円となった。

また、永続的に保持すべき資産の増加額の基本金組入れ2億5,574万円を控除した当年度収支差額は9,859万円の支出超過となった。

事業活動収入は、前年度を7,016万円下回る33億698万円となった。

(4)2015年度末の資産状況

2015年度末における資産状況は、2015年度末現在の資産総額は、107億7,363万円となった。内訳は、土地・建物取得等の有形固定資産が81億2,419万円、その他の固定資産が1億10万円、一部補助金の未収および現預金(次年度繰越支払資金)の流動資産17億1,317万円となり、1億3,473万円減少した。他方、負債も3億9,824万円減少した。

基本金は117億4,495万円で、そのうち校地・校舎・機器備品・図書など教育・研究に必要な資産の自己資金調達額を示す第1号基本金は学生寮(TOHO Learning House)の改修や借入金返済による組入れにより2億1,774万円増加して、113億205万円となった。

繰越消費支出超過額は、本決算での9,859万円の消費支出超過により2015年度末では37億6,855万円に増加した。

資金収支計算書

平成27年4月1日から平成28年3月31日まで

総括表				(単位：千円)			
収入の部				支出の部			
科目	予算	決算	差異	科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	2,191,672,000	2,192,668,000	△ 996,000	人件費支出	1,991,411,000	1,979,939,970	11,471,030
手数料収入	44,368,000	41,184,425	3,183,575	教育研究経費支出	530,075,000	493,464,700	36,610,300
寄付金収入	38,245,000	39,238,060	△ 993,060	管理経費支出	195,361,000	186,242,905	9,118,095
補助金収入	930,278,000	930,126,910	151,090	借入金等利息支出	18,104,000	17,914,628	189,372
国庫補助金収入	178,968,000	176,618,000	2,350,000	借入金等返済支出	342,156,000	342,146,170	9,830
地方公共団体補助金収入	751,310,000	753,508,910	△ 2,198,910	施設関係支出	130,051,000	130,049,097	1,903
資産売却収入	0	0	0	設備関係支出	112,472,000	84,385,546	28,086,454
付随事業・収益事業収入	4,409,000	5,521,500	△ 1,112,500	資産運用支出	233,612,000	233,610,337	1,663
受取利息・配当金収入	3,210,000	3,295,842	△ 85,842	その他の支出	36,302,377	34,747,812	1,554,565
雑収入	87,379,000	89,975,312	△ 2,596,312	〔予備費〕	(18,579,000)	/	31,421,000
借入金等収入	0	0	0		31,421,000		
前受金収入	368,544,000	346,900,000	21,644,000	資金支出調整勘定	△ 28,976,192	△ 33,270,327	4,294,135
その他の収入	448,322,047	450,179,726	△ 1,857,679	翌年度繰越支払資金	1,445,605,271	1,523,008,074	△ 77,402,803
資金収入調整勘定	△ 475,626,000	△ 503,644,272	28,018,272	支出の部合計	5,037,594,456	4,992,238,912	45,355,544
前年度繰越支払資金	1,396,793,409	1,396,793,409					
収入の部合計	5,037,594,456	4,992,238,912	45,355,544				

事業活動収支計算書

平成27年4月1日から平成28年3月31日まで

総括表				(単位：千円)			
		科目	予算	決算	差異		
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	2,191,672,000	2,192,668,000	△ 996,000		
		手数料	44,368,000	41,184,425	3,183,575		
		寄付金	38,245,000	39,737,830	△ 1,492,830		
		経常費等補助金	893,732,000	900,316,010	△ 6,584,010		
		国庫補助金	144,997,000	149,383,000	△ 4,386,000		
		地方公共団体補助金	748,735,000	750,933,010	△ 2,198,010		
		付随事業収入	4,409,000	5,521,500	△ 1,112,500		
		雑収入	87,379,000	90,171,312	△ 2,792,312		
		教育活動収入計	3,259,805,000	3,269,599,077	△ 9,794,077		
	事業活動支出の部	人件費	1,995,799,000	1,983,013,070	12,785,930		
		教育研究経費	984,793,000	954,237,168	30,555,832		
		管理経費	204,002,000	191,953,684	12,048,316		
		徴収不能額等	958,000	958,000	0		
		教育活動支出計	3,185,552,000	3,130,161,922	55,390,078		
教育活動収支差額		74,253,000	139,437,155	△ 65,184,155			
教育活動外収支	収入の部	受取利息・配当金	3,210,000	3,295,842	△ 85,842		
		その他の教育活動外収入	0	0	0		
		教育活動外収入計	3,210,000	3,295,842	△ 85,842		
		事業活動					
	支出の部	借入金等利息	18,104,000	17,914,628	189,372		
		その他の教育活動外支出	0	0	0		
		教育活動外支出計	18,104,000	17,914,628	189,372		
		教育活動外収支差額	△ 14,894,000	△ 14,618,786	△ 275,214		
	經常収支差額	59,359,000	124,818,369	△ 65,459,369			
	特別収支	収入の部	資産売却差額	0	0	0	
その他の特別収入			41,016,000	34,091,633	6,924,367		
特別収入計			41,016,000	34,091,633	6,924,367		
事業活動							
支出の部		資産処分差額	1,766,000	1,764,448	1,552		
		その他の特別支出	0	0	0		
		特別支出計	1,766,000	1,764,448	1,552		
		特別収支差額	39,250,000	32,327,185	6,922,815		
〔予備費〕		(1,509,000)		48,491,000			
基本金組入前当年度収支差額		50,118,000	157,145,554	△ 107,027,554			
基本金組入額合計	△ 235,195,000	△ 255,743,283	20,548,283				
当年度収支差額	△ 185,077,000	△ 98,597,729	△ 86,479,271				
前年度繰越収支差額	△ 3,669,959,316	△ 3,669,959,316	0				
基本金取崩額	0	0	0				
翌年度繰越収支差額	△ 3,855,036,316	△ 3,768,557,045	△ 86,479,271				
(参考)							
事業活動収入計	3,304,031,000	3,306,986,552	△ 2,955,552				
事業活動支出計	3,253,913,000	3,149,840,998	104,072,002				

貸借対照表

平成28年3月31日

総括表 (単位：千円)			
資産の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	9,060,455,848	9,166,822,454	△ 106,366,606
有形固定資産	8,124,195,466	8,371,750,109	△ 247,554,643
特定資産	836,155,865	602,545,528	233,610,337
その他の固定資産	100,104,517	192,526,817	△ 92,422,300
流動資産	1,713,177,721	1,847,915,508	△ 134,737,787
資産の部合計	10,773,633,569	11,014,737,962	△ 241,104,393
負債の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
固定負債	2,095,804,358	2,299,104,152	△ 203,299,794
流動負債	701,429,453	896,379,606	△ 194,950,153
負債の部合計	2,797,233,811	3,195,483,758	△ 398,249,947
純資産の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
基本金	11,744,956,803	11,489,213,520	255,743,283
第1号基本金	11,302,056,574	11,084,313,291	217,743,283
第2号基本金			
第3号基本金	217,900,229	217,900,229	0
第4号基本金	225,000,000	187,000,000	38,000,000
繰越収支差額	△ 3,768,557,045	△ 3,669,959,316	△ 98,597,729
純資産の部合計	7,976,399,758	7,819,254,204	157,145,554
負債及び純資産の部合計	10,773,633,569	11,014,737,962	△ 241,104,393

2016(平成28)年度 東邦学園 事業計画

東邦高校は商業科が、今年度末に最後の卒業生を送り出し、東邦学園の発祥・東邦商業学校から脈々と続いた94年の歩みに幕を下ろす。一方愛知東邦大学は今年度、実業人育成の伝統を受け継いだ経営学部、国際ビジネス学科を新設する。伝統を守りつつ、世界の変動や文明の進歩に取り残されないよう、地域から海外へ、たくましく生き抜ける人材に育てなければならない。

それには、生徒・学生が、より高い学力や専門知識を身に付けて知的な向上を図ると共に、学校という集団における「学び合い」を通じて人格を磨き、次の進路や社会へ自信と誇りを持って踏み出せるよう、教職員が総力を挙げて育むことである。教育機関も、絶えざる変革を求められる。将来学園の中核となって担う人材の計画的な養成も求められる。

東邦高校はこの数年募集が安定し、進学実績もあげているが、他校からはグローバル化を意識した追い上げにあっている。愛知東邦大学は前年度より入学者が大幅に下降した。そうした中で今年度、日本高等教育評価機構の認証評価を受ける。校訓「真面目」と建学の精神「真に信頼して事を任せうる人格の育成」の一層の浸透を図り、特色ある教育を進める必要がある。

学園は、教育力の充実・向上を図りつつ、諸環境を整える必要がある。それには、多額の支出が必要であり、余裕のない財政状況を当面覚悟せざるを得ない。しかし、厳しい少子化を見据えたとき、多額の支出は「将来への投資」ととらえるべきである。経済的な諸条件、学園の体力を考えれば、これから先、より良い環境が復活することは想定できない。今、踏み切る必要があり、現在の躊躇(ためらい)は、後になっての悔いとなる。学内の理解を徹底しつつ、減り張りを付けた重点投入を進める。

【法人】

他法人との競争的環境が一層厳しくなる中、これまで以上に大学と高等学校との連携を密にして、事業計画の円滑な推進を支援する。また、学園全体として知名度が高まるよう、ブランド戦略のもと担当部署を整備して、広報Webサイトを中心に様々な媒体を見直し、発信力を強化する。グラウンドの整備計画など、多額の財政支出を伴う事業も将来への先行投資として検討し、経営目標の達成と安定した学園運営のための諸環境を整える。

【愛知東邦大学】

2016年度から中期経営計画がスタートする。学園の全体の方向と施策を、5年単位で数値目標を掲げて達成を図るもので、2016年度事業計画の各項目は、向こう5年間を見通した第1年次の取り組みであることを認識して進める。

今年度は経営学部国際ビジネス学科を開設する。また、日本高等教育評価機構から新基準による認証評価を受審する。教育・研究・社会貢献の諸活動に加えて、学校教育法改正を踏まえた責任あるガバナンス体制が構築できたかどうか、第三者評価を受ける。

18歳人口減少を見据えた大学間の競争が一挙に厳しくなり、2016年度入学者は、2015年度比で大幅に下降した。小規模を生かした教育の充実を着実に進める一方で、あまりに低い知名度を高めて妥当な評価を得るため、広報ブランド戦略を見直して発信力を強化し、募集担当者を増員する。「名古屋唯一の大学」として、今年度から開設する「TOHO Learning House」や、アクティブ・ラーニングを取り入れた地域連携活動を中心とした学修を通じて、建学の精神「真に信頼して事を任せうる人材の育成」を実あらしめる。

【東邦高等学校】

今年度は90余年の歴史をもつ商業科が終焉を迎える年度である。2017年度からは普通科を主体とする学校に変わる節目の年となる。今後10年間で中学卒業生数は減少する。本校が教育機関としての役割を今後も安定的に果たせるよう、信頼され「選ばれる学校」となるための努力を重ねていかななければならない。

また社会の急激な変化により、学校教育にはキャリア教育、グローバル教育、ICT教育、ESDなど新たな教育が求められている。加えて高校教育における「アクティブ・ラーニング(AL)」充実への動きが急速に進んでいる。このような外部環境の変化に柔軟に対応しつつ校訓と建学の精神に依拠して、進学実績を高めることと学校のイメージアップ化を図ることにより、「選ばれる学校」となるよう努めていきたい。

2016年度収支予算の要旨

2016年度予算は、現在検討中である第4次中期財政計画を念頭に置き、「第3次中期財政計画」を踏まえて編成した。また、次年度の各部門における重点事業については、必要な経費を優先的に計上し、事業の実現を財政面から裏付けるものとした。

2016年度大学部門の入学者数は、297人で定員350人を満たすことができなかった。大学学生の納付金収入は同部門収入の約85%、高校生徒の納付金収入は約45%、学園全体で64%を占めている。学生数は納付金収入だけでなく、経常費補助金の額にも影響する。大学の入学者数の大幅な落ち込みによって、収支のバランスを保つため、支出面も絞らざるを得ない。教育に係る経費は確保しつつも、収支の均衡上、可能な限り収入減に対応した経費配分に努める。(表1)

① 新規事業予算

法人

- ブランディング事業経費および学園公式Webページの刷新

(表1) 事業活動収支予算

(単位：千円)

区 分	予算額	評価の視点
教育活動収支差額①	54,597	教育活動の収支状況
教育活動外収支差額②	△ 14,407	財務活動の収支状況
経常収支差額①+②	40,190	経常的収支のバランス
特別収支差額	5,648	資産売却や処分等臨時的収支
予備費	30,000	
基本金組入前 当年度収支差額	15,838	毎年度の収支バランス (帰属収支差額)
基本金組入額合計	△ 49,128	
当年度収支差額	△ 33,290	長期収支のバランス

学園のブランディング戦略の一環として、公式Webページを全面リニューアルする。

大学

○経営学部国際ビジネス学科の開設

国際ビジネス学科の開設経費として、PIAプログラム使用料や国際教育環境を整備する。

○機関別認証評価の受審

7年間に一度受審を義務付けられている機関別認証評価受審の必要経費を計上した。

○教職支援センター運用経費

2015年度に設置した教職支援センターが本格稼働する。

○「TOHO Learning House」の開設運営費

学生の学びと成長の場である「TOHO Learning House」を4月から開設する。運営に関して、学生住居の管理費やイベント実施等の企画運営費、奨学金を計上した。

○再スタートする社会人講座「愛知東邦大学コミュニティ・カレッジ」

地域貢献活動として実施し、2年間休止していた社会人向け講座を刷新し、新たに運営する。

○「中小企業のための若手社員活性化プログラム」の運営経費

文部科学大臣より、社会人の職業に必要な能力や知識を高める機会を広げる「職業実践育成プログラム(Brush up Program for professional)」に、本学の「中小企業のための若手社員活性化プログラム」が認定され、開始する。

○経営学部地域ビジネス学科の資格の充実

地域ビジネス学科の資格支援を目的に、「ビジネス実務士」「観光ビジネス実務士」「情報処理士」を認定するための要件である一般財団法人全国大学実務教育協会に入会する。

○サービス・ラーニングのカリキュラムに伴う必要経費

「サービス・ラーニング」が正規カリキュラムとなった。

高等学校

○学外講師登用制度の導入

学力向上プロジェクトの新たな取組みとして、センター試験を視野に入れて補習を充実する。その方策として学外講師登用制度を導入し教育力の向上をはかる。

② 継続事業予算

大学

○個人研究費の減額

個人研究費は財政状況を勘案し、一人当たりの研究費額を減額した。

○募集活動に係る経費の維持

学生を確保するために、募集活動に係る経費を確保する。

○各種奨学金

修学や課外活動を経済的に支援するための奨学金(スポーツ音楽、留学生授業料減免、入試、東邦STEP等)を対象学生数に合わせ増額する。

高等学校

○学内ICT教育整備

ICT教育を整備するためにプロジェクターなどを購入し充実をはかる。

学園の人事構成

2016年7月1日現在

本年度の学園の人事構成は下記の通りです。

◆理事・監事・評議員

理事長：榊 直樹
 常務理事：長沼 均俊
 理事：佐々木泰裕、増田 貴治、古市 久子、村田 悟、塩澤 敏明、加藤 明彦、木岡 一明
 監事：川竹 敬三、鈴木 基仁
 評議員：中山 孝男、古市 久子、澤田 節子、堀田 時弘、村田 悟、藤本 紀子、水谷 光博、蔡 賢治、戸谷 正行、森川 早苗、塩澤 敏明、高山 仁惣、鬼頭 玖仁子、牧 潤一郎、大矢 正成、大矢 郁夫、岩田 雅明、柴田 長兵衛、遠山 真人、下出 啓介、別所 眞三

◆法人事務局

法人事務局長：増田 貴治
 特任(財務)事務局次長：堀田 時弘
 法人事務局課長補佐：池田 暁生
 広報企画課長：柴田 千登勢
 広報企画課長補佐：松井 慶太
 以下大学同役職兼ねる
 総務課長：西 弘美
 経理課長：堀田 時弘
 総務課長補佐：貫名 正樹
 総務課長補佐：藤川 久孝

◆大学

学 長：榊 直樹
 副学 長：若林 努
 学 長 補 佐：増田 孝

学 長 補 佐：古市 久子、増田 貴治
 経営学部長：中山 孝男
 経営学部長補佐：高木 靖彦
 地域ビジネス学科長：中山 孝男
 国際ビジネス学科長：田村 豊
 人間学部長：澤田 節子
 人間学部長補佐：葛原 憲治
 教育学部長：今津孝次郎
 教育学部長補佐：後藤 永子
 学術情報センター長：高木 靖彦
 地域連携センター長：増田 孝
 教職支援センター長：今津孝次郎
 地域創造研究所長：山極 完治
 教務委員長：葛原 憲治
 入試委員長：杉谷 正次
 就職委員長：深谷 和広
 学生委員長：丸岡 利則
 総務委員長：阿部 克己

◆大学事務局

事務 長：齋藤 周一
 教務 課 長：藤井 玲子
 教育企画課長：〃
 学生 課 長：二宮加代子
 学術情報課長：〃
 入試広報課長：長沼 英樹
 就職 課 長：〃
 教務課長補佐：新村 健
 学生課長補佐：山際 史子
 就職課長補佐：阪口 将史
 学術情報課長補佐：富田 敦史
 入試広報課長補佐：奥田 緑
 入試広報課長補佐：三輪 哲也

◆高等学校

校 長：佐々木泰裕

学 内 理 事：村田 悟
 教 頭：桜井 秀樹、藤本 紀子
 特 任 教 頭：渡邊 素幸
 校 務 部 長：水谷 光博
 教 務 部 長：岡本 洋美
 生活指導部長：山田 博子
 広報企画室長：平上 純一
 進路指導主事：森田 美樹
 国際交流室長：伊藤 保憲
 メディアセンター長：川邊 雅志
 保健指導主事：船水 昭宏
 生徒会正顧問：古田 知子
 学年主任第1学年：宮田 久
 学年主任第2学年：大上 雄示
 学年主任第3学年：藤澤 一郎
 学科主任商業科：大橋 由紀
 学科主任美術科：杉浦見奈子
 コース責任者文理特進：稲葉 益夫
 コース責任者人間健康：横井 由弦
 教科主任 国語科：青山 大輔
 〃 社会科：志水 和史
 〃 数学科：蔡 賢治
 〃 理科：保坂 秀和
 〃 保健体育科：伊藤 恵子
 〃 芸術科：岡本 増吉
 〃 英語科：平岡 広子
 〃 家庭科：田中 瑞穂
 〃 商業科：大橋 由紀

◆高校事務局

事務 部 長：袴田 克彦
 総務課長補佐：山田 智代
 情報システム課長補佐：池田 暁生

愛知東邦大学公式Webサイトがリニューアルしました

愛知東邦大学の公式 Web が 6 月 15 日にリニューアルされました。「ACTIVE in PUBLIC！広く学ぶ、広く生きる。」のトップページには、学生たちが 4 年間の貴重な学生生活で、大いに学び、成長して欲しいという願いが込められています。

東邦高校生をはじめ、多くの受験生に愛知東邦大学について知ってもらうためのページやコンテンツが工夫されています。その中でも、「TOHO MAGAZINE」では 3 つのコンテンツで構成されています。

一つ目は「TOHO インタビュー」です。東邦学園に関わる方々へのインタビューを通して、個々の活動や思いをクローズアップする企画です。二つ目は「人×人物語」。愛知東邦大学での出会いにスポットをあ



て、出会いの大切さをストーリーにして紹介しています。動画もあり、登場する人物の雰囲気もよく伝わります。三つ目は「Shimoidest's Voice」です。東邦学園の創設者下出民義先生のマインドを受け継いで社会に羽ばたいた愛知東邦大学の卒業生たちの活躍ぶりを紹介します。

「TOHO MAGAZINE」では、年間を通じて随時、新しい情報を盛りこんでいきます。ぜひ ACTIVE に活躍する卒業生や在学生在をチェックしてください。

愛知東邦大学公式 Web サイトに続いて、今後、東邦高校 Web サイトもリニューアルし、学校法人東邦学園の Web サイトも新設していきます。

大学 Web サイト URL : <http://www.aichi-toho.ac.jp/>

愛知東邦大学広報Facebookに「いいね！」のクリックを！

Web サイトのリニューアルに伴い、愛知東邦大学広報 Facebook ページも公開されています。学生や教員の動きや取り組み、クラブ活動での活躍ぶりなどがタイムリーにアップされています。愛知東邦大学広報 Facebook ユーザーのみなさん、ぜひ「いいね！」のクリックにご協力ください。

愛知東邦大学広報 Facebook URL :

<https://www.facebook.com/tohokouhou>

愛知東邦大学コミュニティカレッジ ～2016年度後期講座～

地域に開かれたキャンパスとして、本学の特色を生かした講座を開講します。

地域の皆様との知的交流を通して、「学びのコミュニティ」を創出します。

後期講座ご案内

- 「北欧と日本 –スウェーデン社会のしくみから読み解く新しい社会の形–」
- 「世界遺産を知ろう！
–世界遺産観光に出かける前に–」
- 「古文書に親しみましょう」
- 「あなたは大丈夫!? 防ごう金融トラブル」
- 「東邦珠算塾」
- 「入門ショッパー・マーケティング」
- 「より健康に生きるために」

講座の詳細、講座お申し込みは、8月26日(金)以降、本学の公式 Web ページにてご確認ください。

学生寮でゲストハウス自主運営めざす

ラーニングハウス管理運営責任者 阿比留 大吉

愛知東邦大学の学生寮「TOHO Learning House」(略称・ラーニングハウス)でゲストハウスの自主運営をめざす学生寮のサポートを始めてこの2か月間、まずは共同生活に慣れることから始まり、ゴミ出しや掃除の指導から行いました。地域連携やゲストハウス運営に関して必要最低限のビジネスの基礎知識と企画能力は必要だということでビジネスフレームワークを利用したレクチャーを行うことにしました。



ラーニングハウスでミーティング中の寮生たち

最初は右も左もわからなかった寮生たちが、ビジネスモデルを知ることで稼ぐ仕組みを理解し、ゲストハウスに訪れたお客様と地域をつなぐプロジェクトを自ら企画し実現する力を身につけている様子に大きな成長を感じています。



愛知東邦大学

経営学部 地域ビジネス学科
 国際ビジネス学科
 人間健康学部 人間健康学科
 教育学部 子ども発達学科



2016 オープンキャンパス

7/9(土)・8/9(火)
 8/26(金)・8/27(土)
 10/1(土)

- 9:00/受付開始 10:00/オープニング
- 開催場所/愛知東邦大学キャンパス内
- 対象/高校生・保護者
- 内容/総合説明会・体験授業・キャンパスツアー
個別相談・学食体験・AOガイダンス など
- 地下鉄東山線「一社」駅より無料送迎バスがあります

【お問い合わせ】

愛知東邦大学 入試広報課
 TEL: 052-782-1600



東邦高等学校

普通科(文理特進・普通・人間健康)
 美術科

美術科夏期講習会 7/28(木)、7/29(金) 両日とも9:00~15:00 要申し込み

普通科夏休み1日体験セミナー

8/4(木)、8/5(金) 両日午前の部、午後の部の2回実施 要申し込み

部活動見学会 8/30(火) 9:30~12:00 要申し込み

文化祭 9/24(土) 10:00~14:00 制服着用・生徒手帳持参

中学生英語スピーチコンテスト

10/30(日) 9:00~13:00 要申し込み

学校説明会 11/3(木・祝) 10:00~12:00

デザイン講習会

11/3(木・祝) 9:00~13:30 要申し込み

入試説明会 11/26(土) 10:00~12:00

美術科説明会 11/26(土) 11:00~13:30

美術科・グラフィックデザイン卒業制作展

11/22(火)~27(日) 10:00~18:00

美術科・グラフィックデザイン卒業制作展は愛知県美術館が会場となります。その他のイベントは全て東邦高校が会場となります。



【お問い合わせ】 東邦高等学校 TEL: 052-782-1171(代)